

## 文書館における非来館型サービスの試み

—動画配信を通して—

三好 康太\*

はじめに

1. 「福井県文書館チャンネル」について
  - (1) チャンネルの概要
  - (2) YouTubeを選択した理由
  - (3) チャンネルの運営
2. 動画ができるまで
  - (1) 企画
  - (2) 撮影
  - (3) 編集
  - (4) サムネイル制作
  - (5) 公開
3. 成果
  - (1) 動画の利用
  - (2) ライブ配信の実施とアーカイブ配信の実施
4. 課題
  - (1) スキルやノウハウの継承
  - (2) 環境づくり

おわりに

はじめに

福井県文書館では新型コロナウイルスの影響もあり、2020年（令和2）4月より非来館型サービスの拡充に力を入れている<sup>1)</sup>。従来から県外在住者などの事情により来館が困難な利用者に対して非来館型サービスを行っていたが、それをさらに促進している。具体的にはデジタルアーカイブ福井での資料の公開、各種オープンデータの公開などを積極的に進めている<sup>2)</sup>。

その中でも、20年5月にYouTubeに開設した「福井県文書館チャンネル」は、これまで当館が取り組んだことがない動画という新しいコンテンツに挑戦するものであった。日本の公文書館が開設している公式のチャンネルはまだまだ少ないため、先行事例も少ない<sup>3)</sup>。

---

\*福井県文書館主査



写真1 福井県文書館チャンネルのチャンネルアート

以前から筆者は動画に挑戦したいという意思が強く、業務の中でも動画を利用できないかと考えていた。そこで、非来館型サービスの一環として動画の公開を館内で提案し、賛同を得た。そして、「福井県文書館チャンネル」の主担当として動画の撮影や編集にあたることとなった<sup>4)</sup>。

本稿では「福井県文書館チャンネル」について、これまでの実践と課題について述べる。

## 1. 「福井県文書館チャンネル」について

### (1) チャンネルの概要

「福井県文書館チャンネル」のURLは2022年（令和4）12月1日時点で [https://www.YouTube.com/@Fukui\\_Pref\\_Arch](https://www.YouTube.com/@Fukui_Pref_Arch) である。20年5月にチャンネルを開設して以来、定期的に動画を公開している。

2022年12月1日現在、チャンネル登録者数は99人、公開している動画は21本、総再生数は15,248回である。動画は大きく分けて「本編」と「番外編」の2種類がある。

「本編」では主にデジタルアーカイブ福井の使い方について分かりやすく説明したり、便利な機能について紹介したりしている。また、文書館の業務についての紹介も行っている。

「番外編」はいわゆるバックヤードツアーの代替となる動画である。書庫やくん蒸室といった、普段は利用者が入ることのできない場所を案内している。タイトルに「番外編」と入っている動画が該当する。

その他、広報の一環として、文書館が開催する行事を案内するための動画も公開している。

	公開年月日	タイトル
1.	2020年5月7日	第1回 デジタルアーカイブを使おう（簡易検索） 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Digital Archive Fukui
2.	”	第2回 デジタルアーカイブを使おう（画像の閲覧・ダウンロード・印刷） 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Digital Archive Fukui
3.	2020年5月8日	番外編第1回 文書館探検隊（第4書庫・前編） 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Backyard Tour
4.	”	番外編第2回 文書館探検隊（第4書庫・後編） 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Backyard Tour
5.	2020年5月13日	文書館閲覧室への行き方 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Reading Room/directions
6.	2020年5月24日	第3回 デジタルアーカイブを使おう（アマビコに会う） 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Digital Archives Fukui
7.	2020年6月13日	第4回 デジタルアーカイブを使おう（新聞と新聞記事の検索） 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Digital Archive Fukui
8.	2020年6月27日	番外編第3回 文書館探検隊（くん蒸室・前編） 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Backyard Tour
9.	2020年6月28日	番外編第4回 文書館探検隊（くん蒸室・後編） 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Backyard Tour
10.	2020年7月24日	番外編第5回 文書館探検隊（貴重書庫・前編） 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Backyard Tour
11.	2020年7月25日	番外編第6回 文書館探検隊（貴重書庫・中編） 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Backyard Tour
12.	2020年7月26日	番外編第7回 文書館探検隊（貴重書庫・後編） 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Backyard Tour
13.	2020年8月28日	【終了しました】「春嶽政権」と家臣たち ～長谷部甚平と由利公正を中心に～」 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Notice/Lecture Meeting
14.	2020年9月24日	動画ができるまで ～今日からアーキビストユーチューバー～ 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Column/Public Relations
15.	2020年12月5日	松平文庫テーマ展30「ほめられた人びと ー松平文庫の孝行奇天人関係資料ー」紹介動画 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Exhibition
16.	2021年3月19日	松平文庫テーマ展32「職員録だって歴史資料なのです」紹介動画 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Exhibition
17.	2021年5月14日	【業務紹介】第1回 第4書庫の清掃 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Cleaning/Clean up/Library/Archive/Storeroom
18.	2021年5月21日	【業務紹介】第2回 貴重書庫の清掃 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Cleaning/Clean up/Library/Archive/Storeroom
19.	2021年5月21日	【業務紹介】第3回 文書箱の組み立て 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Assembly/Document Box
20.	2021年5月28日	【業務紹介】第4回 展示の撤収 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Exhibition/Withdrawal/Tidy up
21.	2021年5月28日	【業務紹介】第5回 展示の準備 福井県文書館 Fukui Prefectural Archives/Exhibition/Preparation/Construction

表1 「福井県文書館チャンネル」で公開されている動画一覧（22年12月1日現在）

## (2) YouTubeを選択した理由

動画配信サイトにはYouTubeの他にもニコニコ動画やDailymotionといったものがある。また、FacebookやTwitter、Instagramといった知名度が高く、利用者が非常に多いSNSでも動画を公開することができる。これらの中から当館がYouTubeを選んだ理由は次の通りである。

まず、当館がすでにFacebookとTwitterの公式アカウントを開設していたためである<sup>5)</sup>。Facebookは2014年(平成26)2月に、Twitterは20年4月に投稿を開始した。これら2つでは主に写真と文章で情報を発信しており、差別化をはかるため、動画はYouTubeで公開していくこととした。

次に、YouTubeの利用者数の多さである。YouTubeは世界で約20億人が利用しており、1日あたりの動画再生時間は10億時間を超え、視聴回数は1日あたり数十億回であるという<sup>6)</sup>。現在のところ、世界最大の動画配信サイトであり、ここで動画を公開すれば世界中で多くの視聴者の目に留まりやすい。ただし、海外の視聴者もターゲットにする場合はタイトルに英語を入れるなどの工夫が必要である。

3つ目は、若年層への普及啓発をはかるためである。これまでの当館の展示や講座、イベントなどのアンケートを集計すると、おおむね40代以上が多い。特に、60代以上が大半である。一方、10代～30代の若年層の利用は少なく、大学で歴史学を専攻する学生や博物館で勤務する学芸員が調査・研究のために資料を閲覧する、小学生～高校生が学校の調べ学習や探究活動で調査・相談に来館する、というケースが大半である。近年、筆者は若年層の来館を促すべく、オンラインゲームをテーマにした展示を3回実施し、県内外の若年層を呼び込むことに成功した<sup>7)</sup>。しかし、展示以外でも若年層に対して普及啓発を行う必要もあるため、多くの若年層が利用するYouTubeを活用することとした。

最後に、YouTubeが動画に特化していることである。YouTubeでは再生速度や画質の設定、字幕の設定やダウンロード制限など、多くの機能が実装されている。10分を超えるような長い動画や4Kといった非常に高画質な動画の公開も可能である。これらは視聴者にとって便利であるとともに、動画を公開する側にとってもメリットがある。特に、動画のダウンロードに制限を加えることができる点、字幕を自動で設定できる点などは公開する側に都合が良い。

## (3) チャンネルの運営

「福井県文書館チャンネル」の運営であるが、初期は筆者一人で動画の企画から撮影、編集までの全てを行っていた。途中から、他の職員が動画を企画したり動画に出演したりしているが、編集は筆者が必ず行っている。

職員で作業を行うのが困難な場合、動画の撮影や編集を外部の業者に委託するというやり方もある。外部の業者に委託することで、クオリティの高い動画が完成し、多くの視聴者を取り込むことができると考えられる。しかし、委託するためのコストがかかるのが難点である。

館内で動画の撮影や編集を行うことで内製化が進み、スキルやノウハウを培うことができる、取り組む熱意が高くなり高い成果につながりやすい、コストを下げやすい、業者とのやり取りを省け

るため完成までの期間が短くなる、といったメリットがある。

## 2. 動画ができるまで

当館での動画制作について、その流れを説明する。

### (1) 企画

まずは、動画を制作するにあたり、動画の内容を考え、企画する。

当館では企画書を作成している。参考までに企画書の例を示しておく。この企画書は、台本のよ  
うなものである。動画の出演者のセリフも全て記述されている。

企画書は事前に他の職員にも目を通してもらい、意見や助言をもらい、内容を修正する。

シーン	イメージ	時間	内容	詳細
1	サムネイル	00:00-00:03	サムネイル	画像を表示。 画像の表示時間を調整し、 動画の時間を調整。
2	職員を画面の中心に 背景は展示ケース	00:03-00:10	挨拶	「みなさん、こんにちは。」 「福井県文書館チャンネルへようこそ。」 「動画をご覧いただき、 ありがとうございます。」
3	職員を画面の中心に 背景は展示ケース	00:10-00:30	導入	「今回は～をお送りします。」 「福井県文書館では～です。」

表2 動画の企画書の例

### (2) 撮影

企画書が完成したら、動画を撮影する。動画を撮影するにあたり、以下の機材を用いている。

昨今は世界的な半導体不足や不安定な世界情勢、物価の上昇などを背景に、カメラなどの機材が  
入手できないこともある。特に、最新の機材は人気があるため在庫が不足しがちになり、納入まで  
数ヶ月ということも考えられる。そこで、いわゆる型落ちといって発売から少し年月が経過したも  
の（1年～2年くらい）を探すと在庫を探しやすく、価格を抑えることができる。

## (2)-1 デジタル一眼カメラ



写真2 デジタル一眼カメラの例

一般的なデジタル一眼カメラである<sup>8)</sup>。大きく分けるとデジタル一眼レフカメラとミラーレス一眼カメラの2種類があり、当館では小型で軽量のミラーレス一眼カメラを使っている。

かつてはデジタル一眼カメラで動画を撮影することはできなかった。しかし、現在は高画質の動画を撮影することが可能で、動画に関する機能も非常に充実している。操作も簡単になっており、きれいに録音するためのマイクなどのアクセサリも豊富に販売されている。

デジタル一眼カメラで動画を撮るメリットの1つ目は画質である。スマートフォンやコンパクトデジタルカメラ、ビデオカメラで撮影するよりも高画質の動画を撮影することができる。

メリットの2つ目はレンズを交換できることである。スマートフォンやコンパクトデジタルカメラ、デジタルビデオカメラでは基本的にレンズを交換できない。一方、デジタル一眼カメラには広角や望遠まで様々なレンズが多く用意されている。ズームレンズの中には1本で広角から望遠まで幅広くカバーできるものもある。レンズを交換することで、様々なタイプの動画を撮影できる。

メリットの3つ目は著名なユーチューバー（一般的にYouTubeで動画を配信する人のこと）の多くがデジタル一眼カメラを使っていることである。どのような機材を使っているのか、またどのような設定で撮影しているのかを参考にすることができる。著名なユーチューバーのおすすめのカメラがあれば、それを導入してみるのもよいだろう。

デメリットを挙げるのであれば、高価な点である。昔よりも価格は下がってきているが、カメラ本体とレンズがないと撮影できないため、ビデオカメラなどと比較すると高価である。特に、高性能なカメラやレンズは高価であるため、予算が限られている場合は型落ちのものを探るか、初心者向けの低価格なカメラやレンズを選んで価格を抑えるとよい。

## (2)-2 アクションカメラ



写真3 アクションカメラの例

アクションカメラとは、主にアウトドアやスポーツ中の光景を撮影することに最適化された小型のデジタルビデオカメラのことである<sup>9)</sup>。当館では写真のようなタイプのアクションカメラを使っている。

体の一部や道具、乗り物などに装着することができるため、臨場感あふれる映像を撮影できる点が最大の特徴である。また、小型であるだけでなく、防水機能を持っており、耐久性が非常に高い。

たとえば、頭部に装着することで、一人称視点で動画を撮影できるとともに、両手を空けることができる。そのため、何かの作業をしながら一人称視点で撮影したいときはこのカメラを使う。

小型で軽量であるものの、高画質の動画を撮影することができ、一部の機能はデジタル一眼カメラよりも充実している。

ただし、バッテリーも小型であるため、長時間の撮影が難しい。長時間の撮影をしたい時は予備のバッテリーが必要となる。また、放熱性が悪く、カメラに熱がこもってしまうのも弱点である。

## (2)-3 ノートパソコン

一般的なノートパソコンで、パソコンに内蔵されているカメラを使うのではなく、パソコンの画面をキャプチャーするために使う。

画面をキャプチャーすることで、画面を直接デジタル一眼カメラで撮影するよりもきれいに撮影することができる。

デジタルアーカイブ福井の使い方を解説する動画では、ノートパソコンの画面をキャプチャーして、動画を撮影している。

画面をキャプチャーする方法として、パソコンに元々インストールされているソフトウェアや機能を使う、無料配信のソフトウェアをインストールして使う、といったものがある。

#### (2)-4 アクセサリー

動画の撮影のために、様々なアクセサリーを用意している。

まず、メモリーカードである。動画はデータのサイズが非常に大きいため、容量が大きくデータの読み込みや書き込みが速いカードを使わなければならない。撮影が終わるとすぐにデータを外付けハードディスクに移している。これはカードの容量を確保し、データを守るためである。

なお、動画のデータは数十GBになることもあり、ネットワーク回線に大きな負担をかけてしまう。オンラインのストレージサービスや館内のネットワークに保存すると、動画の編集や再生に大きな支障が出ることもある。そこで、当館では動画やそれに関するデータは全て外付けハードディスクに保存している。

次に、三脚である。デジタル一眼カメラは昔よりも小型軽量になった。しかし、スマートフォンやアクションカメラと比べれば大きくて重い。手で持って撮影すると手ブレの原因にもなる。そこで、三脚にカメラをしっかりと固定して撮影している。また、水準器がついた三脚を使えば、手で持って撮影するよりも水平に撮影することができるため、画面が傾いているといった失敗を防ぐこともできる。

さらに、アクションカメラを頭部に装着するためのバンドを撮影に使っている。これを使えば、頭部にアクションカメラを簡単に、しっかりと装着できる。

最後にリモコンである。リモコンを使えば、遠くからカメラを操作して撮影することができるため便利である。特に、一人で撮影する状況ではリモコンがあると撮影しやすくなる。

#### (2)-5 撮影時間について

動画の撮影時間であるが、全体で5分の動画であれば30分程度、全体で10分の動画であれば30分～1時間程度かかる。

撮影に時間をかける場合、バッテリーの容量に気をつけなければならない。カメラの種類やバッテリーの容量、動画の設定や気温などの条件にもよるが、1時間～1時間半でバッテリーが空になってしまうことが多い。そのため、できるだけ短時間で撮影を終わらせるようにしている。

## (2)-6 撮影方法について

撮影では、短い動画を何本も撮影するという方法を用いている。撮影の流れを簡単に示す。

	セリフ
1 本目の動画	「みなさん、こんにちは。」 「福井県文書館チャンネルへようこそ。」 「動画をご覧いただき、ありがとうございます。」
2 本目の動画	「今日は現在開催中の展示について、皆さんにご紹介します。」 「福井県文書館では、閲覧室で定期的に展示を開催しています。」
3 本目の動画	「現在開催している展示のテーマは×××です。」 「〇〇〇にまつわる資料をいくつか展示しています。」

表3 動画の撮影の例

1本の動画で短いセリフを撮影し、それを何度も繰り返していく。セリフの長さによるが、1本の動画で1文～2文を目安にしている。なお、セリフの前後には無言でじっとカメラを見ている時間を少し作っていて、時間にすると3～4秒くらいである。こうすることで、セリフの前後に余白ができるため、動画をつなげて編集しやすくなる。また、音声をきれいに収録することができる。

このようにすることで、セリフを噛むなどのミスが少なくなる、やり直しがしやすい、記憶力に自信がなくても取り組めるといったメリットがある。もし、動画を編集していて差し替えが必要になった場合でも、該当する部分のみを撮影し直して簡単に差し替えることができる。

### (3) 編集



写真4 動画の編集の様子

動画の撮影が終わったら、動画の編集を行う。編集はパソコンで行い、動画編集用のソフトウェアを使う<sup>10)</sup>。

短く撮影した動画を何本もつなげていき、1本の動画を作っていく。この中で、動画にエフェクト（効果）を加えたり無駄な部分をトリミング（カット）したりする。音量や色味の調整も可能である。また、音楽や字幕を入れるのも簡単である<sup>11)</sup>。

動画の編集時間は、全体で5分の動画であれば1時間程度、全体で10分の動画であれば3時間程度かかる。最初は編集に時間がかかっていたが、慣れていくうちに短時間で編集できるようになった。

編集していて問題のある部分があった場合、その部分を撮影し直したこともあった。そこで、編集途中でのやり直しをできるだけ防ぐために、撮影中にその場で動画を全て再生して内容を確認するようにした。

### (4) サムネイル制作

動画を公開する前に、サムネイル（サムネ）を制作する。サムネは画像を縮小して表示したもので、YouTubeの視聴者に動画の内容を伝えるものである。YouTubeの検索画面やチャンネルの動画一覧などで小さな画像が並んでいるが、これのことである。

YouTubeでは、動画の中から自動的に生成されたものの中から好きなものを選択するか独自のものを使うこともできる。

一般的に視聴者の目に最初に留まるものであるため、動画を視聴してもらうためにはこれに力を入れなければならない。ユーチューバーの多くは動画ごとに独自のものを制作していることを踏まえ、当館でも動画ごとに独自のものを制作している。

独自のものを制作するにあたり、画像を編集したり加工したりするためのソフトウェアが必要となる。当館ではいくつかのソフトウェアを使い分けて作っている<sup>12)</sup>。

材料となる画像は、デジタル一眼カメラで撮影して準備している。画質が良いと加工する際に画像が劣化するリスクを減らせる。

準備した画像を切り貼りしたり色味を変えたりしながら制作している。また、動画の内容がわかるようなキーワードを必ず盛り込んでいる。



写真5 サムネイルの例

### (5) 公開

動画とサムネが完成したら、動画を公開する。公開の際、動画のタイトルや概要欄の入力、タグの設定、公開日時の設定などを行う。

概要欄には当館のHPへのリンクなどを掲載している。特に、資料を紹介する場合はデジタルアーカイブ福井で公開されている資料へのリンクを必ず掲載している。こうすることで、YouTubeから資料へのアクセスを誘導ことができ、資料の閲覧につながる。

動画のタイトルには、英語を入れるようにしている<sup>13)</sup>。これは海外からの視聴を意識しているためである。

## 3. 成果

### (1) 動画の利用

公開された動画は普及啓発をはかるのが主な目的であるが、一方で博物館や公文書館といった資料保存利用機関の関係者に活用されている事例もある。

県内のある博物館の学芸員から「書庫の様子や工夫がよく分かり、書庫の整備の参考となった」という声を頂戴した。また、県外のある文書館の職員から「WEB会議システムを用いて館内を案内

するのに役に立った」という声もいただいている。

さらに、当館では各地から関係者の視察を受け入れているが、そこで話題の一つになるのが動画である。「どうやって作っているのか?」「誰が作っているのか?」という質問を受けることが多く、動画に興味や関心のある関係者が多い印象である。

これらに加えて、ある大学の教員から「大学で担当している授業で文書館内を案内する動画を活用している」という声を頂戴した。歴史学の授業で当館の動画を学生に視聴させているという。学生の大半は公文書館についてあまり知らないようで、「書庫に入る時に専用のスリッパに履き替えるなんて知らなかった」「書庫の温度や湿度を厳しく管理するなど、資料を大切に保存するのは大変だと分かった」といった感想があったという。また、授業のレポートでも当館の動画を引用してレポートを執筆した学生もいたそうで、大学教育でも当館の動画が活用されている事例ともいえる。

## (2) ライブ配信とアーカイブ配信の実施

当館では、20年9月13日(日)に講演会を開催した<sup>14)</sup>。この講演会は、新型コロナウイルスの流行の影響で例年よりも定員を減らして開催した。そこで、より多くの人々が講演会に参加できるようにと、YouTubeでのライブ配信を実施した。当時、これは当館として初めての取り組みであることはもちろん、県立の文化施設としてあまり前例のない取り組みであった。

筆者はYouTubeのライブ配信を行うのは初めてであったため、まずはどのような機材が必要か調査し、必要な機材を用意した。その後、当日までに何度も配信のリハーサルを行った。結果として、会場では講演会の最初から最後までほぼ途切れることなく配信を行うことができた。当日は約40人がライブ配信を視聴した。

しかし、カメラの性能が低かったため、画質や音質が悪くなってしまい、一部の視聴者から不評であった。また、安定した高速インターネット回線を確保できなかったため、視聴者側では動画が途中で何度も止まったという指摘も多数受けた。

そのため、2021年(令和4)10月31日(日)の講演会はライブ配信の実施は見送った。そのかわり、講演会の終了後に動画を一定期間公開することとした。講演会当日は動画の撮影に専念し、動画を編集したものを期間限定で公開した。講演会は約90分と長時間であるため、動画は分割して3本とし、1本の動画で約30分とした。分割することでデータ容量が小さくなるため、編集もしやすく公開も容易となる。公開期間は約1ヶ月、3本の動画の視聴回数は合計536回であった。

21年の講演会の動画配信が好評であったため、22年8月28日(日)の講演会も期間限定で公開した。約90分の講演会を3本の動画に分割して編集し、約1ヶ月間にわたって公開した結果、3本の動画の視聴回数は合計228回であった。

## 4. 課題

### (1) スキルやノウハウの継承

大きな課題として、動画についてのスキルやノウハウの継承がある。

動画の撮影や編集などは専門のスキルやノウハウが必要である。カメラやソフトウェアの使い方

など、学習することは非常に多い。

このような専門的なスキルやノウハウは簡単に身につけられるものではない。しかし、スキルやノウハウを継承して引き継がなければ、職員が異動すると動画が作れなくなる、といった問題が起こる<sup>15)</sup>。

解決策として、他の職員と動画についてのスキルやノウハウを共有する、主に動画の撮影や編集に従事する職員を配置する、といったことが考えられる<sup>16)</sup>。

## (2) 環境づくり

動画の撮影や編集のための環境づくりも重要である。

動画を撮影したり編集したりするには多くの機材が必要である。また、高性能な機材は価格が高くなる傾向がある。

性能の低い機材には問題点が多い。たとえば、性能の低いパソコンで作業をすると、処理性能が低いため、作業時間が長くなる。大きな容量のデータを扱うのが難しく、作業中にパソコンの動作が止まってしまうこともある。最悪の場合、データが破損してしまう可能性もある。

解決策として、パソコンの処理性能が速くなるように工夫する、動画の時間を短めにしてデータの容量を軽くすることが考えられる。

## おわりに

以上が、「福井県文書館チャンネル」のこれまでの実践と課題である。

動画を公開し始めて2年以上が経過したが、チャンネル登録者数や視聴回数は増加傾向にある。また、令和3年度のホームページアクセス件数は4,046,833件（うち画像閲覧点数249,861）で、2019（令和元）年度の1,685,750件（うち画像閲覧点数102,774）、令和2年度の3,579,497件（うち画像閲覧点数229,492）、から大幅に増加してきている<sup>17)</sup>。動画の公開がどれほど普及啓発に貢献しているか、動画が普及啓発の手段として本当に有効であるかを正確に検証する必要があるものの、利用者からは「家にいながら文書館を楽しむことができる」といった肯定的な評価を多数いただいている。

文書館を普及啓発する手段としての動画はまだ発展途上にある。今後も定期的な動画の公開を通して、普及啓発をはかるとともに、課題を検証して改善を図りたい。

## 注

- 1) 当館の非来館型サービスについては、宇佐美雅樹「福井県文書館の非来館型サービスについて」(『アーカイブズ』第79号 2021年 国立公文書館)などを参照されたい。
- 2) デジタルアーカイブ福井については、『文書館だより』第29号(2021年 福井県文書館)を参照されたい。
- 3) YouTubeを検索して確認できるものとして、「国立公文書館」(<https://www.YouTube.com/@JPNatArchives>)、「【公式】東京都公文書館」([https://www.YouTube.com/@tokyo\\_archives](https://www.YouTube.com/@tokyo_archives))、「東京大学文書館チャンネル」(<https://www.YouTube.com/@UTArchives>)などがある。URLはいずれも2022年12月1日時点のもの。
- 4) この段階で、筆者は動画の撮影や編集は完全な初心者であった。そのため、関連書籍を読み込んだりYouTubeの動画を視聴したりして動画の勉強やスキルの習得に努めた。
- 5) 投稿内容は当館のFacebook (<https://www.facebook.com/FukuiPrefArch>) と Twitter ([https://twitter.com/Fukui\\_Pref\\_Arch](https://twitter.com/Fukui_Pref_Arch)) を参照されたい。URLはいずれも2022年12月1日時点のもの。
- 6) YouTubeに関連する書籍として、『YouTube革命』(ロバート・キンセル、マーニー・ペイヴァン 2018年 文藝春秋)、『YouTubeの時代』(ケヴィン・アロッカ 2019年 NTT出版)、『広報PR・マーケッターのためのYouTube動画マーケティング最強の教科書』(木村健人 2021年 秀和システム)、『YouTuberの教科書』(大須賀淳 2021年 インプレス)などがある。
- 7) 「ゲームとつながる福井の歴史～刀剣と城～」(<https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/08/m-exhbt/20171011AM/20171011.html>)、「ゲームとつながる福井の歴史 - 刀剣と御城 - シーズン2」(<https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/08/m-exhbt/20191220AM/20191220AM.html>)、「ゲームとつながる福井の歴史 Season3 - 朝倉氏と一乗谷城 -」(<https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/08/2022exhb/202210m/20221028m.html>)。URLはいずれも2022年12月1日時点のもの。
- 8) 著名なメーカーとしてCanon、Nikon、Sonyなどがある。
- 9) 著名なメーカーとしてDJI、GoPro、Sonyなどがある。
- 10) 著名なソフトウェアとしてAdobe Premiere Pro、Black Magic Design Da Vinci Resolve、Windows Movie Makerなどがある。
- 11) 音楽の挿入では著作権に十分注意しなければならない。最近は無料で利用できる音楽も増えているが、出典の明示が必要な場合もある。
- 12) 著名なソフトウェアとしてAdobe Illustrator、Adobe Photoshopなどがある。
- 13) 英語については、筆者が勉強するとともに、インターネット上の無料の翻訳サービスなどを利用している。ただし、翻訳サービスは翻訳の質に差があるため、利用には注意が必要である。
- 14) 講演会の内容は本川幹男「“春嶽政権”と家臣たち-長谷部甚平と由利公正を中心に-」(『福井県文書館研究紀要19』2022年 福井県文書館)を参照されたい。
- 15) 当館では職員の定期的な異動があるため、継続した取り組みのためのスキルやノウハウの継承は必須である。また、県内のある博物館では動画を担当していた職員が退職した結果、動画を編集して公開することができなくなってしまうという。

- 16) 県内のある博物館では、アルバイトとして雇用された職員が動画の編集を担当しているという。この職員は動画の編集に長けていたため、動画の編集を担当しているとのことである。
- 17) これらの統計データは『福井県文書館年報 第19号』（2022年 福井県文書館）などを参照されたい。